

29年7月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 7月1日～ 29年7月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は13社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/7月	8月	9月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 10.0	△ 5.0	△ 5.0
	マツ	△ 27.3	△ 22.7	△ 18.2
	広葉樹	△ 4.2	△ 20.8	△ 16.7
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 16.7	△ 16.7	△ 11.1
	マツ	△ 20.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 27.3	△ 18.2	△ 22.7
在庫動向	スギ・ヒノキ	4.5	0.0	4.5
	マツ	△ 22.7	△ 13.6	△ 13.6
	広葉樹	△ 16.7	△ 20.8	△ 16.7

・チップ用国産原木の入荷及び消費動向はスギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹は3カ月連続の減少。

・在庫動向はスギ・ヒノキは7月の増加から8月は横ばい、9月は再び増加に。マツ及び広葉樹は3カ月連続の減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/7月	8月	9月
スギ・ヒノキ	5.0	10.0	0.0
マツ類	0.0	4.5	0.0
広葉樹	4.2	△ 4.2	△ 4.2

・チップ用国産原木の購入価格動向は、スギ・ヒノキは強含み。マツ類は横ばい。広葉樹は弱含み。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも仕入、消費、在庫動向は変わらず（東北）。
・スギ・ヒノキ及びマツは国有林のシステム販売と森林再生事業の材の入荷が見込まれる。在庫はスギ5.0→5.5カ月、マツは3.5→3.5カ月、広葉樹は2.0→2.5カ月（東北）。
・針葉樹材がバイオマス発電事業用に流れている（関東）。
・国有林からのスギ・ヒノキ原木の受入れが増加した。大手製紙メーカーが広葉樹の受入れ制限を実施中（関東）。
・スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも仕入は良好。消費及び在庫動向に変動なし（中国）。
・仕入は、前半は降雨による影響で入荷が落ち込んだかもしれないが、天気が回復してくれば通常になると思われる。消費は製紙用チップを主にフル稼働の状況だ。在庫は広葉樹原木が減少している。マツも減少しているが大勢に影響はない（九州）。
・原木の仕入は広葉樹のみで横ばいで推移。広葉樹原木の仕入及び生産計画に応じて消費。在庫は広葉樹のみで横ばいで推移（九州）。

(原木価格)

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも価格は変動なし（東北）。
・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹ともにこのまま横ばいで推移の予定（東北）。
・木質バイオマス発電用の燃料として需要の高まりとともに、価格は少しずつ上昇気味。針葉樹ばかりでなく広葉樹も同様（東北）。
・バイオマス発電が本格稼働するとチップ用原木の購入価格を値上げしないと確保できなくなる（関東）。
・国産原木の原木の購入価格に変動なし（中国）。
・原木の購入価格に変動はない（九州）。
・広葉樹の原木価格は横ばいで推移（九州）。

29年7月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/7月	8月	9月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 11.1	△ 11.1	△ 5.6
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 31.8	△ 27.3	△ 31.8
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 5.0	△ 5.0	0.0
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 33.3	△ 20.8	△ 25.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 14.3	△ 14.3	△ 7.1
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7

・木材チップの生産、出荷及び在庫動向は、スギ・ヒノキ、マツ類及び広葉樹とも総じて減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	29/7月	8月	9月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	△ 9.1	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格動向は、スギ・ヒノキ及びマツ類は横ばいで推移。広葉樹は7月の弱含みから8月、9月は横ばいに。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・出荷量も20%減少した（関東）
- ・大手製紙メーカーの受入れは定期修理及び定期修理に向けての在庫調整のため出荷は低迷（関東）。
- ・木材チップの生産、出荷、在庫動向は変動がない（中国）。
- ・製紙用を主にフル稼働で生産している。木質バイオマス発電用も一定量出荷している。チップの在庫は持っていない（九州）。

(木材チップ価格)

- ・広葉樹チップが5月より値下げである。為替の関係で輸入チップの方が安価のためか（関東）。
- ・木材チップの出荷価格に変動なし（中国）。
- ・チップの出荷価格は変動はない（九州）。
- ・広葉樹のチップ価格は横ばいで推移している（九州）。
- ・
- ・